

平成26年度第2回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日時：平成27年3月19日（木）午前10時～正午

場所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室3

出席者：委員11名、オブザーバー3名、発表者6名、事務局19名

(開会)

1 あいさつ

○愛知県地域振興部長

愛知万博を機に開業したリニモだが、平成27年3月6日に、10周年を迎えることができた。万博閉幕後に落ち込んだ利用者数も、毎年着実に伸ばすことができ、今では700万人以上の方にご利用いただく、地域の生活や通勤・通学の足としてなくてはならない交通機関となった。

沿線の開発に目を向けると、長久手古戦場駅では区画整理事業に基づく土地の造成が進み、日進東口論議土地区画整理事業においても、地権者の仮同意率がほぼ目標に近づくなど、沿線各市のご努力もあり、順調に進捗している。

県としても、今秋に、モリコロパークで、全国都市緑化あいちフェアを開催し、万博の理念の再認識とともに、来場者に広く愛知の「花」と「緑」を知ってもらうことにより、この地域の更なる賑わい創出を図って参りたいと考えている。

本日の会議では、第1回の会議でご提言いただいた項目への対応状況と本年度実施した調査の結果報告、そして、支援した団体による活動成果の発表を行う。

今年は、「リニモ沿線地域づくり構想」の取組の目標年次になることから、「構想」が展望する平成37年に向け、現在、主要施策の見直し作業を進めており、来年1月には、平成28年以降の取組を示した「構想」の改訂版を発表する予定である。

委員の皆様のご意見を、できる限り、反映させて参りたいと考えているので、ぜひ積極的なご発言をお願いしたい。

2 議題

(1) 平成26年度第1回リニモ沿線地域づくり会議における委員提言・要望への対応状況

○事務局から資料1説明

【委員・事務局発言要旨】

○清水委員

資料1の4ページ目にある、世代が混住するよという意見への回答についてだが、敷地最低限度を広めに設定することが、世代混住にどのように繋がるのかについて、説明していただきたい。

○長久手市

公園西駅では、現在、市施工で土地区画整理事業を進めている。また、区画整理の地区からは少し離れたところでは、民間開発として、市街化調整区域の地区計画により、まちづくりを進めている。そういった民間による開発区域においても、地区計画で最低敷地面積を200㎡（約60坪）としている。

ご質問についてだが、民間での開発区域でも、受忍できる範囲で敷地をできるだけ広く設定していただいている。それにより、例えば、二世帯住宅の建設が可能になり、三世代の家族が一緒に生活を営めるのではないかと考えている。

○瀬口委員長

集合住宅を作る場合、若い家族向けの住宅を優先的に作るという手立ても考えられるのではないかなと思う。一度に同じ世代の人たちが入り、一度に子どもが生まれ、一度に高齢化する、ということにならないように、という趣旨だと思う。

○島田委員

名鉄系のmanacaの導入を検討しているということで、とても良い選択だと思う。大分前の知識であやふやだが、名鉄系のmanacaのシステムは、様々なサービスを取り込めるようになってきている。問題は、個々の学校や商業施設、自治体などが、それぞれ違うシステムを開発すると、ハードは共通でも、ソフトはバラバラになってしまい、利用者にとってはあまり便利でなくなる恐れがあるので、manacaが地域カードとして便利になるような共通のソフトを作れるよう、導入者が横の連携、相談のできる場を設定すると良いと思う。

また、全国共通化という、導入の絶好のタイミングを逃したのだが、具体的にいつから導入できるのか、可能であれば教えていただきたい。

○愛知県

できるだけ可能な限り速やかに準備を進め、導入したいと思っている。

○瀬口委員長

資料1の3ページ目の、公園の駐車場料金を引き上げられないかという意見についてだが、渋滞対策を考えた時に、大きなイベントがある時には、駐車場料金を高く設定し、リニモの利用促進を図るということ意識して、研究課題として検討していただきたい。

(2)「リニモ沿線地域づくり構想」今後の取組の検討に係る基礎調査結果

○事務局から資料2説明

【委員・事務局発言要旨】

○野村委員

先進事例調査の結果で、住宅開発ということで提案を頂いていたのだが、一戸建て

の関係がほとんどだったと思う。マンション開発についても調査を行ったのか。

○愛知県

今回の調査では主に店舗を設置してからの交通量の変化などを調査しており、そこまでは調査していないが、今後、検討していきたいと思う。

○島田委員

感想であるが、今回の先進事例では、大規模な区画整理があり、高速道路も利用する大規模商業施設ができ、それはそれで、まちづくりの成功事例だと思う。ただ、この地域はどういった地域づくりを目指すのかということ考えた時に、それを先進事例として扱うのには疑問がある。ヒアリング先の選定からも分かるように、リニモ沿線地域では、多様なステークホルダーの方たちが地域づくりに関わることで成果を上げてきた。今日のこの会議自体もその一つとして機能してきた。

そこが、素晴らしいのであって、住みやすいまち、環境が保全されているまち、あるいは文化が薫るまちを作ってきたと思う。

先進事例の例をすぐにリニモ沿線で適用するのではなく、ヒアリングを行った人の意見をよく混ぜ合わせて、今後のまちづくりを進めていってほしいと思う。

○松宮委員

資料2の2ページ目に、週末と休日限定の家族割引や弾力的なリニモの利用料金の導入が書いてあるが、ここに付け加えてはどうかと思うことがある。

この会議ですべて問題になっているのが、8月と12月、2月に利用者が減ることである。学生は大体4月に3か月定期を買って、7月に1ヶ月分だけ定期を買って、また9月か10月に3ヶ月定期を買って、1月に1ヶ月分定期を買い、合計8ヶ月分だけ定期を買っている。それ以外の時期は、大学に来ることさえ嫌がり、アルバイトはリニモ沿線でせず、課外活動についても、名古屋市内で行っている。

8月と2月限定で、格安の定期があると、学生が沿線で過ごしやすくなり、休み中でも学校に来るようになり、一気に利用者が減るのを食い止めることができるのではないかと思うので、今後の課題として検討してほしい。

○石井委員

リニモの利用者数を、短期的にでも増やすことができたらい、提案したいことがある。

東京や大阪に比べると、この地域は、8月や12月、2月のイベントが少ないという印象がある。例えば、東京では、8月に代々木公園で毎週フードフェスティバルがあったり、下町の川沿いを中心に花火大会があったりし、若者向けの音楽フェスティバルなども活発に行われている。

モリコロパークの駐車場を会場にして、リニモでしか来場できないようにし、8月に毎週5万人規模のイベントを行えば、短期的にリニモの利用者数を増やすことができる。

一方で、長久手市や日進市は、非常に若者に人気のある住みやすいまちだと思って

いる。ブランドをつくるという意味でも、認知度を上げることが必要である。リニモの利用者は、圧倒的に名古屋市からのインバウンドが多く、花火大会や、若者向けの野外フェスティバルといったイベントも、地域のブランド化に効果があるのではないか。

○瀬口委員長

8月と冬季の集客効果があるイベントについても、調査対象にしてもらおうと良いと思う。特に駐車場を使ったイベントについては、リニモの利用促進に効果があるので良いと思う。

(3) リニモ沿線地域づくり活動支援事業に係る成果発表

○事務局から資料3説明

- ・「ぼぷかる」連携インタラクティブアートを通じたリニモ沿線活性化
(愛工大チームDCC)
資料3-1により説明

【委員発言要旨】

○瀬口委員長

なかなか良い取組だと思う。ホームページに活動状況を載せるときや、学会で発表する時に、助成を受けているということを書いていただきたい。

- ・My リニモ&My タウン
(愛知淑徳大学ビジネス学部上原ゼミ&コミュニティ・コラボレーションセンター)
資料3-2により説明

【委員発言要旨】

○瀬口委員長

最近、駅ナカショップは人気だが、人気の店と、学生の皆さんが決められた店にギャップがあったかもしれない。また、場所に問題があったかもしれず、これは大きな課題になったと思う。

おもちゃ箱計画は、持続性のある取組になりうると思う。予算の問題もあると思うが、来年、再来年も作品を募集し、応募があつて、飾り付けをし、楽しめるという性格のものだと思うので、やってもらって良かったと思う。

- ・リニモは一日イングリッシュタウン！「リニモでハロウィーン」
(特定非営利活動法人フィール・ザ・ワールド)
資料3-3により説明

【委員・発表団体発言要旨】

○松宮委員

事前登録制だったということだが、当日参加したいという人は、参加できたのか。

○フィール・ザ・ワールド

当日参加したい人については、それぞれのブースで受け付けをするようにしていた。実際に当日参加を希望する人は残念ながら少なく、モリコロパークでは5、6人いたという状況である。皆さんしっかり準備をしてきていたので、当日すぐにというのはなかなか難しかったのではないかと思う。当日参加者には、100円均一のハロウィングッズを準備しておき、それをお買いいただき、参加していただいた。

保険の関係で、参加者名簿を持っておく必要があったので、今すぐという場合は、その場で名前等を控えさせていただいた。

3 その他

【委員発言要旨】

○鈴木委員

フィール・ザ・ワールドさんの取組は、電車の中でも、それぞれの駅でもハロウィーンの体感ができ、これはリニモ沿線が一つのまちであるようなイメージを作りあげ、非常に良い発想だと思う。

リニモの沿線を一つのまちと見立てて、そのまちでイベントをやっているということ、事業の中で作り上げていくことで、リニモの豊かなブランドイメージに合ったものをできるだけ行っていくことを検討していただけたらと思う。

○松宮委員

これまで積み上げてきた事業の経緯が分かる展示のようなものがあると良いと思う。リニモの本社は、イベントの時には駐車場をなくして、リニモに乗って来てください、ということができると思う。

常設という形では無理かもしれないが、例えば、リニモの本社で、今までの活動の展示や、写真の展示などを行うと、「リニモ博物館」として、観光としても見に行くことができ、陶磁美術館にも訪れてもらえるようになると思う。そして、陶磁資料館南駅の乗降客数の向上にも繋がると思う。

○瀬口委員長

陶磁資料館南駅の名前はいつ変わるのか。せめて費用のかからない方法で、陶磁美術館があることを分かるようにできるよう検討していただきたい。

【事務局挨拶】

○愛知県

本日は足元の悪い中、来場いただき感謝している。平成26年度第2回リニモ沿線地域づくり会議を閉会する。

(閉会)